



就任のごあいさつ

島根県健康福祉部 青少年家庭課 課長 平岡 昇 氏

今年度から、青少年家庭課長に就任いたしました平岡です。何卒よろしくお願いいたします。

島根県保育協議会保育士部会の皆様には、日ごろから県内の子どもたちが健やかに育っていけるよう、ご尽力をいただいておりますことに、心から敬意を表します。また、県の児童福祉施策の推進に、ご理解・ご協力いただいておりますことに厚くお礼申し上げます。

私ごとで恐縮ですが、平成17年度から2年間保育支援グループのGLをいたしましたので、また、皆さんと一緒に仕事ができることをうれしく思っています。当時、「認定こども園制度」が導入され、基準条例づくりに忙殺されたこと、保育所の皆さんから保育の質の低下を懸念する多くの声が寄せられたこと、などなど鮮明に思い出することができます。そして今、その時と比較にならないほどの大きな変革の波の中で、当職を担うこととなり運命的なものを感じています。

ご承知のように、幼児教育・保育・子育て支援の質・量の充実を図り、総合的に提供することを目的とする「子ども子育て支援新制度」が平成27年度からの導入される予定です。消費税を中心とした財源の裏打ちがあるこの制度の目指す方向性は、社会全体で子どもの健やかな育ちを支えようとするものであり、望ましいものだと考えます。

しかし、新制度が動き始めれば、私立保育所における「委託制度」が経過的に残されたとは言いうものの、保育を取り巻く環境が大きく変わる

だろうことは、想像に難くありません。

この新制度については、「居宅訪問型」など新たな保育の供給体制も含めた『保育』や『教育』を行うための具体的な“基準”やかかる“費用”など、肝心なことが現時点で明らかにされていません。その上、新制度のスタートは、平成27年4月と予定されており、残された時間はそう長くはありません。

また、市町村が実施する「ニーズ調査」の結果、これが、市町村が策定する「子ども子育て支援事業計画」の根拠とされ、『保育』や『教育』の量的な供給目標に大きく影響しますので、それぞれの保育所での進むべき方向の判断に大きく影響するものと考えられます。

このような状況の下、保育関係者の皆さんは、日々の保育に誠心誠意取り組みながらも、先の見えない不安や焦り、遅々として進まない国の動きに対するもどかしい気持ちも抱いていらっしゃるのではないかと思います。私も同じです。とはいえ、この新制度を、現場で、「子どもや保護者の方々にとってより良い環境をつくっていく」ことにつなげていかなければなりません。

このことを目指して、私も皆さんと情報を共有し、協力し合って取り組みを進めたいと考えていますので、どうかご理解とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

そして、この原稿が皆さんの目に触れるころには、国からより多くの具体的な情報が示されていることを切に祈念します。



子どもが豊かに育つ保育の実践 ～笑顔 × 未来 + 自然 = 生きる力～

平成25年11月7日(木)～8日(金)、 岩手県盛岡市において開催されました。

基調報告 保育をめぐる動向と全国保育士会の動き

全国保育士会 会長 上村 初美

内 容

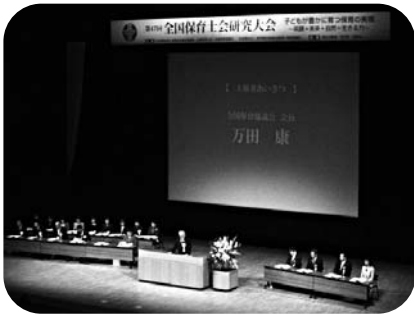
1、子どもの育ちと保育をめぐる状況

- (1) 国の「子ども・子育て会議」および「子ども・子育て会議基準検討部会」の動向
- (2) 国「幼保連携型認定こども園要領（仮称）の策定に関する合同の検討会議」の動向
- (3) 保育士等処遇改善臨時特例事業【平成 24 年度補正予算】
- (4) 保育士の立場から、一人ひとりの子どもの発達を保障し、子どもの豊かな育ちを支えるため、子どもにとって必要な保育について主張
- (5) 全国保育協議会との協働により現場の意見を発信

2、全国保育士会とは

- (1) 組織の成り立ちと枠組み
- (2) 平成 25 年度の主な活動（方針）
- (3) 重点的取り組み
- (4) 今後めざす組織のイメージ

3、東日本大震災被災地支援



記念講演 人生に大切なことはすべて絵本から教わった

すえもりブックス 元社長 末盛 千枝子 氏

苦しくて悲しくて、ひとりでは立ち上がれないときに、本に助けられた経験のある人は、一冊の本が誰かの力になることを知っている。
東日本大震災の被災地に絵本を送るプロジェクトの代表の末盛さんは、被災地の子どもたちに23万冊の絵本を送り届けられました。
「絵本には希望の言葉が詰まっています」と信じる末盛さん。「子どもには本に巡り合う権利があります。心から美しいと思える本を手渡していきたい。」という

末盛さんの気持ちから、たくさんの本を紹介して頂き、感動しました。
また最後に被災地出身あるいはゆかりの歌手、タレント、俳優、スポーツ選手による「花は咲く」の歌をVTRで見せていただき、今回の災害の復興に日本中がみんなで支えていることを十分感じることができました。私たちもできることはなにか問いかけてみましょう。
とても穏やかな時間でした。

第5分科会 子どもの育ちから健康、安全を考える「健康及び安全」

テーマ：今日もねむくない ～子どもにとって休息とは～

島根県 社会福祉法人 花の村 さくら保育園

第47回全国保育士会研究発表にて、第5分科会研究発表をさせて頂きました。

子どもたちが健やかに成長していくために必要なものはなんでしょうか？適切な運動、調和のとれた食事、十分な休息・睡眠が大切だといわれています。保育園では、お昼寝を休息と捉えていると思いますが、昼寝はなぜ必要なのでしょう？また子ども一人ひとりの成長していく過程において生活リズム・発達の違いによっては昼寝の時間に差が生じるのではないのでしょうか？

そんな様々な疑問や課題をもち、保護者との連携を図り、家庭の睡眠アンケート調査を実施し、子ども一人ひとりに合った昼寝の在り方、休息の考え方についてまとめて発表させて頂きました。

具体的には、保育園での昼寝を一斉に寝かせることが子どもたちの「情緒の安定」につながっているのかどうか疑問になり、「昼寝の選択」をしました。

今回の研究から昼寝のタイミングと睡眠時間には個人差がありました。同一の子どもでも、その子の活動

内容・前日の睡眠状態・体調などによって昼寝のタイミングや時間の変動があってもいいのではということから昼寝のとり方を、子どもの個人差を考えて柔軟に対応することにしました。

一人ひとりの子どもの昼寝のパターンを観察しながら個別に対応できるようにしていくことで子ども一人ひとりの心身の安定につながる事が分かりました。

子どもが生き生きと活動ができ、友だちと楽しそうに過ごす姿や子どもたちが休みたいとき、静かに過ごすことが出来る場所など環境の設定を整えることが保育士の役割と感じ、日々の保育実践につなげています。

◆助言者：大阪総合保育大学 学部長・教授 大方 美香
《講評のまとめ》

保育において、子どもの育ちは、ひとり一人違うということは一様に理解されている。しかし、多忙な生活実態という保育現場では大人中心になることはないだろうか。

本研究が示唆する「昼寝のタイミングと睡眠時間には個人差がある」は、当然だが、実践に生かすには相当の覚悟と創意工夫が求められる。
楽しかった・嬉しかったと思える一人一人の保育生活は保育所の社会的責任であり、努力することが課題である。
これからも継続され、一人ひとりの生活の質保証へと更なる研鑽をお願いする。



実践研究分科会	1	保育の内容を深める「子どもの発達と環境(3歳未満児)」 研究1 未満児から以上児へとつなげる豊かな保育 ― 保育活動における子ども同士、保育士との関わりを考える ― 研究2 0歳児保育における発達を支える環境づくり ― ひとりひとりが安心して過ごせる関わり ―	3	保育の内容を深める「子どもの発達と環境(3歳未満児)」 研究1 保育士間の悩みを共有し、望ましい育ちにつなげる支援のあり方 研究2 視覚障害のある子どもと主につづ保育	5	子どもの育ちから健康、安全を考える「健康及び安全」 研究1 今日もねむくない ～ 子どもにとって休息とは ～ 研究2 園がサポートする子どもの健康 ～ 生活習慣の見直しから運動あそびへ ～	7	保護者に対する支援を考える「地域における子育て支援」 研究1 柏崎市の子育て支援の充実をめざして ～ それぞれの子育て支援室の特色を活かすために ～ 研究2 視覚障害のある子どもと主につづ保育
	2	保育の内容を深める「子どもの発達と環境(3歳以上児)」 研究1 「一斉保育から乳児担当制保育、用事異年齢保育への道筋」 ― 一人ひとりを大切にする保育をめざして ― 研究2 生ゴミリサイクル活動を通して、様々な人との関わり、豊かな心や体を育てる	4	保育の内容を深める「保育のなかの食育」 研究1 「食べる楽しさ大切さ」 ― 乳幼児における保護者支援と食育実践 ― 研究2 心と体の豊かさを育む保育	6	保護者に対する支援を考える「保育所における保護者支援」 研究1 子どもの居場所 ― 課題を抱えた子どもの居場所づくりと保護者支援に関する考察 ― 研究2 「保育所における子育て家庭への保護者支援」 ― 多世代交流サロンでのかわりをおとして ―	8	専門性の向上をはかる「専門職としての責務」 研究1 一時保育における保育者の専門性

保育者のつどいから



9月8日(日)浜田市石央文化ホールにて「保育者のつどい」を開催しました。
記念講演は松居和氏の『子育てがはぐくむ絆～保育園が伝える幸せのを見つけ方～』と題して講演していただきました。講演の要旨をご紹介します。

人間は0歳を授かることで不自由になります。しかし自由を奪われ、その中から言葉のいらないコミュニケーションの存在を知るのです。やがてはじめての笑顔に幸せを感じ、はじめての歩行に嬉しくなります。一緒に見ていた人間の心がひとつになり、絆がうまれるのです。それが人間社会の原点、生きる力です。また砂場で遊んでいる子どもの姿から「砂で幸せになれる」「いつでも幸せになれる」ことに気づき、「幸せは自分の心のものさしだい」ということを教えてくれます。

子どもを産み、育てるということは、人間が宇宙から与えられた最も尊い仕事です。もう一度、人は信じあうために産まれてくるということを、保育や教育の場で、頼りきって、信じきって、幸せそうな子どもを眺めて思い出すのです。

子どもの存在の意味をお話ししていただき、たくさん子どもたちを見てこられたからこそ込められた思いを感じ、力強く私たちの心に響きました。

講師紹介 まつ い かず 松居 和氏

【プロフィール】
1954年、東京生まれ。
慶応大学哲学科からカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校(UCLA)民族芸術科に編入、卒業。尺八奏者としてジョージ・ルーカス制作の「ウィロー」、スピルバーグ監督の「太陽の帝国」をはじめ、多数のアメリカ映画に参加。

1988年、アメリカにおける学校教育の危機、家庭崩壊の現状を報告したビデオ「今、アメリカで」を制作。以後、「先進国社会における家庭崩壊」「保育者の役割」に関する講演を保育・教育関係者や父母を対象に行い、欧米の後を追う日本の状況に警鐘を鳴らしている。

2006年、埼玉県教育委員会委員に就任。
2008年、制作・監督したドキュメンタリー映画「シスタ……チャンドラとシャクティの踊り手たち」が第41回ワールドフェスト・ヒューストン国際映画祭、長編ドキュメンタリー部門で金賞受賞。

2009～2010年、埼玉県教育委員会委員長。
著書「家庭崩壊・学級崩壊・学校崩壊」(エイデル研究所)ほか。

オフィシャルHP: <http://kazumatsui.com>

お母さん、どこ

「ヒカリちゃんのお母さん、どこかしら」
「ここにいるじゃない」
「それはコウちゃんのお母さんでしょ」

弟を抱いた私に、娘は言った
長いまつげの小さな目は
悲しげにも見えたし、
何かをためしているようにも見えた
「じゃあ、ヒカリちゃんのお母さんはどこにいると思うの」
「病院に寝ているんだと思う。バアバが言ってたよ。
ヒカリちゃんのお母さんは、病院に行ったよって」



娘は、私が弟を出産した日のことを言っているのだ
「お母さんをむかえに行かなくちゃ」
玄関でくつをはこうとする娘の
小さな背中を見ていたら
私は
夕闇の中で
大切な人に置き去りにされたように
心細くてたまらなくなった

同時になぜか
動揺している自分が
くやしきもあるのだった

娘はふり返って
私が泣いているのを見て
「あっ、ヒカリちゃんのお母さん、やっぱりここにいた」と
無邪気な風に言うのだった

松居先生の講演の最後に小野省子さんの詩集を朗読していただきました。

小野省子さんの詩集より

人材育成ミーティングの報告

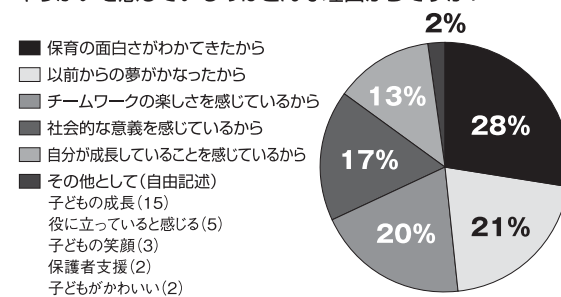
人材育成プロジェクト
相 山 慈(あさり保育園)

11月13日(水)は『いきいきプラザ』(松江市)、15日(金)は『石央文化ホール』(浜田市)で、人材育成ミーティングが行われました。参加者は両会場合わせて24人。テーマに掲げた「保育のおもしろさと忙しさについて」、活発に意見が交わされる場となりました。

9月の保育者のつどいで実施したアンケート結果の一部を紹介します。

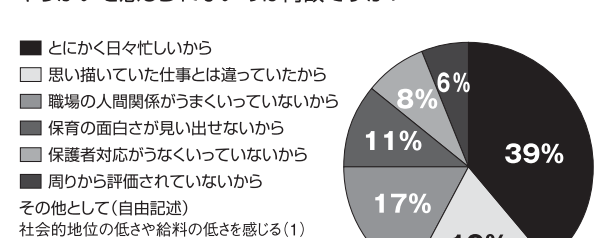
○保育にやりがいを感じている理由

やりがいを感じているのはどんな理由からですか？



○保育にやりがいを感じられない理由

やりがいを感じられないのは何故ですか？



このアンケート結果ではやりがいに関して様々な理由が出てきています。日々の保育の中でどのようなことにおもしろさを感じ、また忙しさを感じているのか、もう少し具体的なことを聞かせてもらいたいと考え、今回のミーティングを計画しました。その中で出てきた声は以下の通りです。

日々の保育の忙しさって…

「3大行事(祭り・運動会・発表会)の前は特に感じます。」
「書類・製作物を持ち帰るので帰宅後も仕事モードのままです。」
「追われている感じがして、ほっとする時間がほしいです。休憩時間も休みも」
「保育士が足りません。」
「保護者との関係、職員の人間関係の難しさを感じます。」

でも、おもしろさもあって…

「解決につながらなくても、共感してもらうことで“明日もがんばろう”と思います。」
「チームワークを感じたり、子どもと通じ合えた時はおもしろさに繋がります。」

そして、やりがいもあって…

「子どもの成長を見ることができた時、達成感を感じた時、認められた時。」
「チームワークがあるからなんでも挑戦できます。連携は大切です。」
「やるしかないと思います。」

様々な立場の参加者が意見を交わすのを聞いていて、保育の「おもしろさ」と「忙しさ」はコインの裏表のように実はどちらにでもなり得る関係なのではないか、そんなことを感じています。「忙しさ」よりも「おもしろさ」や「やりがい」に少しでも心が向くような、そんな保育のあり方をみんなで目指していけるといいですね。今回の人材育成ミーティングでいただいたヒントを生かし、また新たな取り組みを人材育成プロジェクトで考えていきたいと思っています。参加してくださったみなさん、ありがとうございました!

連絡ノートより

一歳男児の母

今日、保育園に行くのに車に乗る時に車に朝つゆが付いているのを見て、〇〇が「ぶっぶ、泣いちょーねー」と言っていました。



【し の み】
(5歳男児)

連絡ノートより

母子の会話

夜、お月さま「三日月」を見て

子「ねえ、お母さん、あの月(三日月)置に落ちたつめ切ったあとの爪みたい」

数日後の月を見て

子「わあ～ずいぶんと大人なったねえ～」



【おまわりさんに横断歩道の渡り方を教えてもらったよ】
(5歳男児)

連絡ノートより

4歳男児 父

日曜日にトウモロコシの皮をむいてレンジで「チン」して食べました。皮をむいていると「トウモロコシは服をいっぱいきて暑くて大変だわ～」と言っていました。

また「トウモロコシのひげはお父さんのひげよりやわらかいねー」だそうです。



【もぐらみたいなおいも】
(4歳男児)



5歳男児
スライムを見つけた時
「ぼくにもスマイルちょうだい!」

保育士のつぐやき

家族4人で会話中、お父さんが息子に「Sは何型かいね?」と聞くとSは「わからん」と言い、お父さんが「A型だよ!」と息子に伝えると横にいた娘がとっさに「ゆうがただよ」と真顔で言い、みんなで大笑いしました。



【おいも】
(1歳児)



子どものつぐやき

しいの実をつくれた3歳児のA君

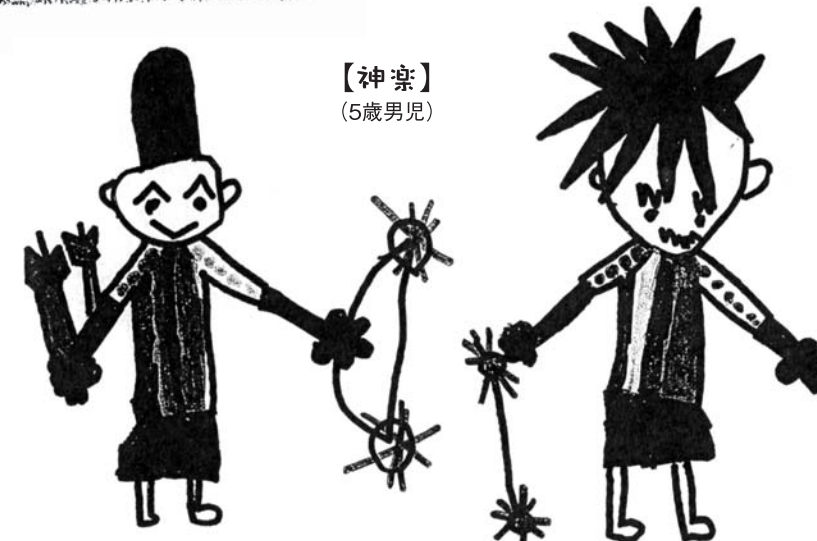
A「せんせい、いえにいっぱい(かぞく)おる?」

保「4人おるよ」

A「まっとってよ」

と言って遠くにしいの実をとりに行って

「はい、あげる!」と3つくれました



【神楽】
(5歳男児)

みんなの声を見て! 聞いて!



子どものつぐやき

2歳男児

「お母さんのお腹の中に、女の子がおるんよ～」

「ぼくのお腹の中には、男の子がおるんよ!」(笑)



【おいも】
(〇〇〇〇〇〇)

こどもと保育者の会話

5歳男児 2人話し合っている

保「何の話し合いをしているの?」

子「べきをきめとる」

保「?・?・?べきって何?」

子「外に出るべきかのべき!」

連絡ノートより

3歳男児

昨日私たちの結婚式のスナップ写真が出てきました。

それを見て「これが始まり?」と言い出して.. おお、なんだか深いぞ!と大人しく笑ってしまいました

子どものつぐやき

4歳女児

初雪の日、窓をあけると「雪のにおいがする～」と大喜び。

私たち大人は感じとれるかな…。

